

令和6年度 第2回豊島区総合教育会議 次第

日 時： 令和6年7月4日（木） 午前11時00分
会 場： 豊島区役所本庁舎8F 教育委員会室

1. 開 会

2. 議 題

教育大綱素案について

3. 報 告

パブリックコメントの実施について

4. 閉 会

【配布資料】

資料1 豊島区教育大綱 素案（案）

資料2 豊島区教育大綱の位置づけ（案）

資料3 パブリックコメントの実施について

参考資料：小学校・中学校長からのご意見

豊島区教育大綱 素案(案)

豊島区
令和6年7月



目次

第1章 基本的な考え方

教育大綱の位置づけ	2
目指すまちの姿・目指す子どもの姿	3

第2章 施策の方針

方針1 幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します	6
方針2 多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します	9
方針3 地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、地域を愛する心の豊かな子どもを育成します	12
方針4 子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します	16

第1章

基本的な考え方



豊島区教育大綱の策定

教育大綱は、地方教育行政の組織運営に関する法律の規定に基づき、地方公共団体の長が地方公共団体の教育・学術及び文化の振興に関する総合的な施策について総合教育会議において協議し、大綱を定めることが義務付けられています。豊島区では、これまで教育振興基本計画、いわゆる「教育ビジョン」を定めており、その目標や施策の根本となる方針が大綱と合致することから、「教育ビジョン」を「教育大綱」に位置付けてきました。しかし区政において極めて重要な柱である教育について、民意を代表する区長として何を目指していくかという方針を教育委員会と協議の上、区民に示す必要があると考え、新たに「豊島区教育大綱」を策定することとしました。

豊島区教育大綱の位置づけ

「豊島区教育大綱」は、区の教育施策の基本理念や施策の根本的な方針を定めるもので、「豊島区基本構想」、「豊島区基本計画」を踏まえ、他の各種計画と整合を図るとともに、区長部局と教育委員会が相互に連携・協力することで、より効果的に教育施策を推進することを目的としています。

体系図

目指すまちの姿

未来を切り拓く 笑顔で元気な
“としまっ子” が育つまち

目指す子どもの姿

学校、家庭、地域、関係機関等が連携して、すべての子どもの学びを支え、「元気でたくましく、個性や能力を伸ばしていける子ども」「人とのつながりを大切にし、共に支えあう子ども」「多様な体験を通じた心の豊かな子ども」「地域に育まれ、地域を愛する子ども」を育てます。

第2章 施策の方針



方針

「元気でたくましく、個性や能力を伸ばしていける子ども」「人とのつながりを大切にし、共に支えあう子ども」「多様な体験を通じた心の豊かな子ども」「地域に育まれ、地域を愛する子ども」を育てるため、次の4つの方針に基づき具体的な取組を推進していきます。

1

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活気に満ちた子どもを育成します

2

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します

3

地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します

4

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します

方針

No.	方針	具体的な取組
1	幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活気に満ちた子どもを育成します	①生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期における就学前教育を充実させます。
		②デジタル機器を最大限に活用した先進的な教育を推進し、子どもたちの学習意欲と知識・能力を高めていきます。
		③自然やスポーツなど多様な体験の場を創設し、生涯を通じて健康でたくましく生きていくための基盤をつくります。
2	多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します	①子どもたちの声をしっかりと聴き、思いを受けとめ、子どもの学ぶ権利を保障します。
		②障害の有無や国籍等にかかわらず、個々の人権を大切に、一人ひとりの子どもに寄り添った教育を推進します。
		③いじめや不登校、困難な家庭環境などといった状況に置かれている子どもを全力でサポートし、誰一人取り残さないきめ細かい支援を実施します。
3	地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します	①芸術鑑賞や地域の方々との触れ合いを通して、豊かな感性と社会性を育みます。
		②地域の歴史や文化について理解を深め、地域を愛する心や、地域文化の伝承・発展の担い手を育成します。
		③国際色豊かなまちの強みを活かして多文化教育を推進し、共生社会の担い手となるグローバルな人材を育成します。
4	子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します	①学校・家庭・地域がつながり、地域全体で子どもを見守り、育てる教育活動を展開します。
		②企業や大学など、地域ネットワークを活用した、多様で特色のある教育の場を創出します。
		③計画的な学校改築・学校改修を推進し、どの学校においてもより快適な学習環境を提供します。
		④学校図書館の学習情報センター化と学校図書館司書の充実を図り、子どもたちが主体的に学習できる環境を整備します。
		⑤教員が心のゆとりとやりがいをもって生き生きと働ける環境を創り、教育活動の質を向上させます。

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

1-①

生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期における就学前教育を充実させます。

◆幼児期における教育は、子どもの心身の発達と健やかな成長を促すうえで、重要な意義をもっています。

◆小学校入学後に“学習に集中できない”“教員の話を受けずに授業が成立しない”など、学級がうまく機能しない、いわゆる「小1プロブレム」が発生しています。

○地域人材や関係機関と連携を図りながら、乳幼児期の発達段階に応じたプログラムやサービスを提供し、子どもたちの心身の発達や人格形成の基礎を培い、すべての小学校への円滑な接続を図ります。

○施設の種別や公立私立の別を問わず、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、同じまちで育つ子ども同士の交流や職員の合同研修など、保育園・幼稚園・小学校の交流を深めていきます。



写真差し替え

池袋幼稚園「芸術家と子どもたち」表現活動

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活気に満ちた子どもを育成します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

1-②

デジタル機器を最大限に活用した先進的な教育を推進し、子どもたちの学習意欲と知識・能力を高めていきます。

◆目まぐるしく変化する社会情勢に柔軟に対応し、すべての子どもが自らの力で将来を生き抜いていくためには、様々な知識や技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力といった能力を高めていく必要があります。

○デジタル教科書や一人一台のタブレットパソコンなどのICT機器を活用し、一斉学習、個別学習、協働学習、遠隔授業、動画視聴などの様々な学習方法を取り入れ、言語活動、観察、実験、問題解決的な学習などの質の向上を図っていきます。

○デジタル機器を活用して、子どもたち一人ひとりが自ら学習計画を立てたり、目標に向かって学習することにより、個人の成長に合わせた学びの習得につなげていきます。



デジタル教科書を使った授業

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

1-③

自然やスポーツなど多様な体験の場を創設し、生涯を通じて健康でたくましく生きていくための基盤をつくります。

◆生涯にわたり健康を維持していくためには、子どもたちにバランスの良い食生活や運動習慣など、心と体の健康づくりを定着させていく必要があります。

○体育の授業において、タブレットパソコンで映像等を用いて、運動の楽しさや体の動かし方を学ばせるとともに、スキー教室などの宿泊行事を継続的に実施し、スポーツに親しむ機会を創出していきます。

○移動教室など、自然の中で体を動かしたり、自然に触れる体験を学校での学びに繋げていきます。

○子どもたちの健やかな成長を後押しするため、定期健康診断・歯科健診の実施に加えて、歯磨き指導や様々な健康教育を通して、子どもたち自らが健康維持・増進に対する必要性を感じ、健康的な日常生活を送る意欲を高めていきます。



「としま地域クラブ」ダンス発表会

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します

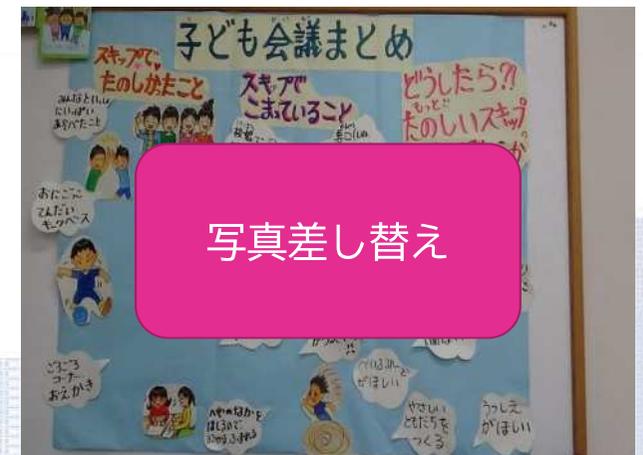
具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

2-①

子どもたちの声をしっかりと聴き、思いを受けとめ、子どもの学ぶ権利を保障します。

- ◆子どもが安心して学び、将来への希望を持って自分らしく、健やかに成長するためには、子どもが自由に意見を言え、その意見が尊重されていると実感できる体験が必要です。
- 学校や地域など、あらゆる活動の場において、子どもが参画し、意見表明や活躍できる機会を創出していきます。
- 子どもの個々の思いや願いをしっかりと受けとめ、あらゆる教育活動を通して実現できるようにします。
- 子どもたちが主体的に学ぶ授業を展開することにより、自らの個性や能力を伸ばし、自己肯定感・自己有用感の高い子どもを育てていきます。



子どもスキップ「子ども会議」

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

2-②

障害の有無や国籍等にかかわらず、個々の人権を大切にし、一人ひとりの子どもに寄り添った教育を推進します。

◆障害の有無や国籍等にかかわらず、すべての子どもたちが自らの能力や可能性を最大限に伸ばし、自己肯定感をもって生きていくためには、個々のニーズに合った支援を受けることのできる教育環境を確保することが重要です。

○特別な支援を必要とする子どもが安心して学校に通い、個別最適な学びを実現することができるよう、教育センターを拠点として、支援の充実を図っていきます。

○日頃から「違いは個性」であることを示し、自分も人も大切にする心情を養います。また、人権教育や道徳教育を充実させ、様々な体験や人との関わりの中で、その多様性に気づき、他者を認め合う社会性を育み、心のバリアフリーを実現していきます。



西巣鴨小学校 インクルーシブ遊具

方針

2

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

2-③

いじめや不登校、困難な家庭環境といった状況に置かれている子どもを全力でサポートし、**誰一人取り残さない**きめ細かい支援を実施します。

◆一人ひとりの子どもの置かれている状況は様々です。誰一人取り残さず、子どもたちが将来に希望を持って健やかに成長していくためには、地域全体で子どもたちを守り、支えていくことが大切です。

○一人ひとりのニーズを的確に把握し、困難な課題を抱える子どもに対する支援を、学校だけでなく、まち全体で行い、子どもたちが抱える問題の未然防止、早期発見・早期対応につなげていきます。

○様々な状況の子どもに寄り添い、関係機関や専門家等との連携により、きめ細かなサポートを行うとともに、学校以外でも友達との交流や学習が行える環境を整備していきます。



VLP(ヴァーチャル・ラーニング・プラットフォーム)を活用した不登校支援

地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

3-①

芸術鑑賞や地域の方々とのふれあいを通して、豊かな感性と社会性を育みます。

◆芸術鑑賞は、豊かな人間性を育み、人間らしく生きるための糧となり、子どもたちが多様な価値観を身につける貴重な学び場となります。

◆年代を超えた人とのふれあいは、人と人とのつながりの大切さを知る機会となり、子どもたちの協調性や他人を思いやりやる心を育むとともに、地域コミュニティの形成にもつながります。

○東京芸術劇場、豊島区立芸術文化劇場等の地域の施設を活用し、音楽鑑賞教室や芸術鑑賞教室等、児童生徒が本物の芸術・文化に触れる機会を創出し、創造力や表現力等の豊かな感性を磨いていきます。

○学校の授業に地域人材を講師として積極的に招き、直接ふれあう中で、子どもたちが社会性を身につける機会を創出していきます。



目白小学校 狂言鑑賞

地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

3-②

地域の歴史や文化について理解を深め、地域を愛する心や、地域文化の伝承・発展の担い手を育成します。

◆豊島区内には、ソメイヨシノ発祥の地、雑司が谷すすきみみずく、トキワ荘、長崎獅子舞など、地域に根づいた歴史・文化が数多く存在します。また、東京手描友禅、東京籐工芸、東京組紐などの時代を超えて受け継がれてきた伝統工芸があります。一方で、人口の流動性が高いことや後継者不足などから、その継承が課題となっています。

○各教科等の授業において、地域資源を積極的に活用し、子どもたちが地域への理解を深め、地域を大切にする心を育てていきます。

○熟練技術者による技術の実演やものづくり現場への訪問などを通して、子どもたちのものづくりへの興味・関心を高めていきます。



「長崎獅子舞」体験
豊島区指定無形民俗文化財

地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

3-③

国際色豊かなまちの強みを活かして、多文化教育を推進し、共生社会の担い手となるグローバルな人材を育成します。

◆豊島区の人口の約1割が外国籍となっており、国籍も多様化しています。また、海外からも多くの方が豊島区を訪れています。豊かなコミュニティを形成していくためには、国籍、人種、文化などの違いを互いに認め合い、多文化共生を推進できる人材を育てていく必要があります。

○英語などの多言語や他国の文化に触れる機会を充実させ、子どもたちの多文化への興味・関心を高める教育を推進していきます。

○区内大学等と連携し、小・中学生が留学生等と交流する機会を設け、異なる文化や価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力を養い、国際社会の一員として活躍できる人材を育てていきます。



写真差し替え

立教大学 イングリッシュキャンプ

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に 適応した学校づくりを推進します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

4-①

学校・家庭・地域がつながり、地域全体で子どもを見守り、育てる教育活動を展開します。

◆子どもたちが安全・安心に楽しく学校生活を送るためには、学校のみならず保護者や地域と連携し教育活動をまち全体で展開していく必要があります。

○学校と地域が力を合わせ「地域とともにある学校」を目指すコミュニティスタールの活動を各校で展開し、地域ぐるみで子どもの成長を見守っていきます。

○子どもたちへのきめ細やかなサポートや教員の負担を軽減するため、学校運営に携わる支援員・ボランティア等の配置を強化していきます。

○通学時の見守り、防犯カメラ、学校の入退室管理システム及び学校非常通報装置等の対策を講じ、児童の安全・安心を確保していきます。

○子どもスキップの運営に携わる人員を十分に確保し、放課後の子どもたちが安心して過ごせる場所を確保していきます。



通学路の合同点検

方針

4

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

4-②

企業や大学など、地域ネットワークを活用した、多様で特色のある教育の場を創出します。

- ◆学校や家庭が抱える課題が複雑化・困難化する中、課題の解決に向けては、公民連携を推進し、教育活動の充実を図っていく必要があります。
- 区内にある企業や団体等と積極的に連携し、様々な体験や人と人とのふれあいの中で学ぶキャリア教育を充実させていきます。
- 地域の方や大学生の力を借りて、放課後の学習や大学のキャンパスでの学習を行い学習意欲を高めます。
- 地域や企業、大学と連携し、子どもスキップや放課後子ども教室の充実を図っていきます。
- 中学生の部活動の機会を確保するため、部活動指導員を全校に配置するとともに、専門性の高い外部指導者による技術指導を取り入れる等、部活動の質の向上にも努めながら、地域連携・地域移行を推進していきます。



ダンスの写真に差し替え

放課後を活用した学習の場
(学習院大学での「としま地域未来塾」)

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に 適応した学校づくりを推進します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

4-③

計画的な学校改築・学校改修を推進し、どの学校においてもより快適な 学習環境を提供します。

◆「豊島区立小・中学校改築計画」や「学校施設等長寿命化計画」に基づく学校改築は、令和6年度時点で3分の1が完了しています。

◆各学校では、予防保全の考え方に基づいた大規模改修工事を実施していますが、未改築校については、設備面において学習環境に課題があります。

○新たに学校改築計画を策定することにより、計画的な学校改築を推進し、学習環境の改善を図ります。

○新たな学校改築を契機として、小学校から中学校への円滑な接続を目的に全中学校ブロックで推進してきた小中連携教育をより一層推進していきます。

○改築を進めるには一定の期間を要するため、改築の時期が遅くなる学校については、長寿命化改修工事を行い、学習環境の改善を図っていきます。

○一人一台タブレットパソコンの定期的な更新とともに、ネットワーク機器や大型提示装置等の基盤整備を進め、学習環境の質の向上を図っていきます。



令和4年度に竣工した
池袋第一小学校

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します

具体的な取組

◆は現状・課題
○は今後の取り組み

4-④

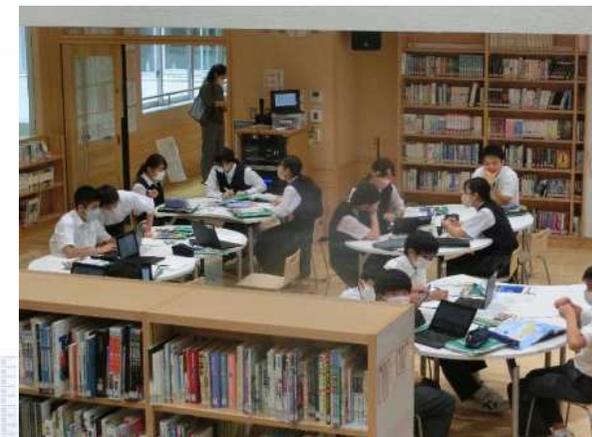
学校図書館の学習情報センター化と学校図書館司書の充実を図り、子どもたちが主体的に学習できる環境を整備します。

◆学校改築や改修工事に合わせてICT環境や学習スペースなどの機能を備えた学習情報センターを整備していますが、一部の学校では学習情報センター機能の整備が遅れています。

○学校改築のみならず大規模改修の機会を捉えて、学校図書館の学習情報センター化に取り組み、子どもたちが主体的に学習できる環境を整備していきます。

○子どもたちの読書活動への関心や学習意欲を高めるため、学校図書館司書の配置日数増や地域図書館との連携を強化し、蔵書やレファレンスサービスの充実を図っていきます。

○子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、調べたり話し合ったりする活動ができる、快適な学習環境を整備していきます。



巣鴨北中学校 学習情報センター

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します

具体的な取組

4-⑤

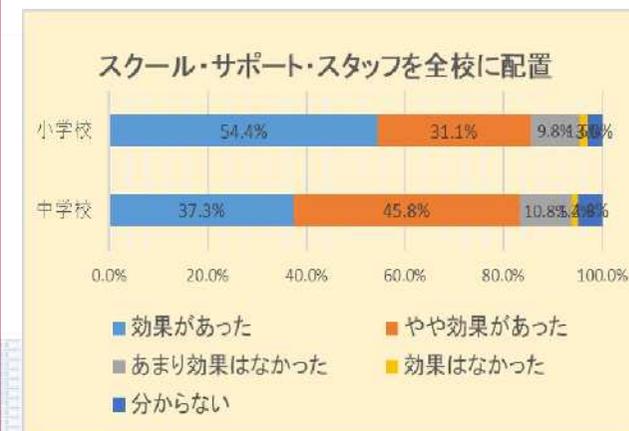
教員が心のゆとりとやりがいを持って生き生きと働ける環境を創り、教育活動の質を向上させます。

◆子どもたちの学びを確保し、持続可能な学校運営を構築するためには、教員の長時間労働を是正し、働き方改革を継続的に進め、教員が心身ともに健康で生き生きと働ける環境を創ることが重要です。

○教員が子どもたちと向き合う時間や、授業準備の時間を十分に確保することができるよう、スクールサポートスタッフなどの外部人材の参画、ICTの活用をこれまで以上に進め、教員が抱える様々な心身の負担を軽減し、質の高い教育活動につなげていきます。

○教員の働き方改革の取り組みを保護者や地域、関係団体の方々のご理解・ご協力をいただき、地域一丸となって働き方改革を進めていきます。

◆は現状・課題
○は今後の取り組み



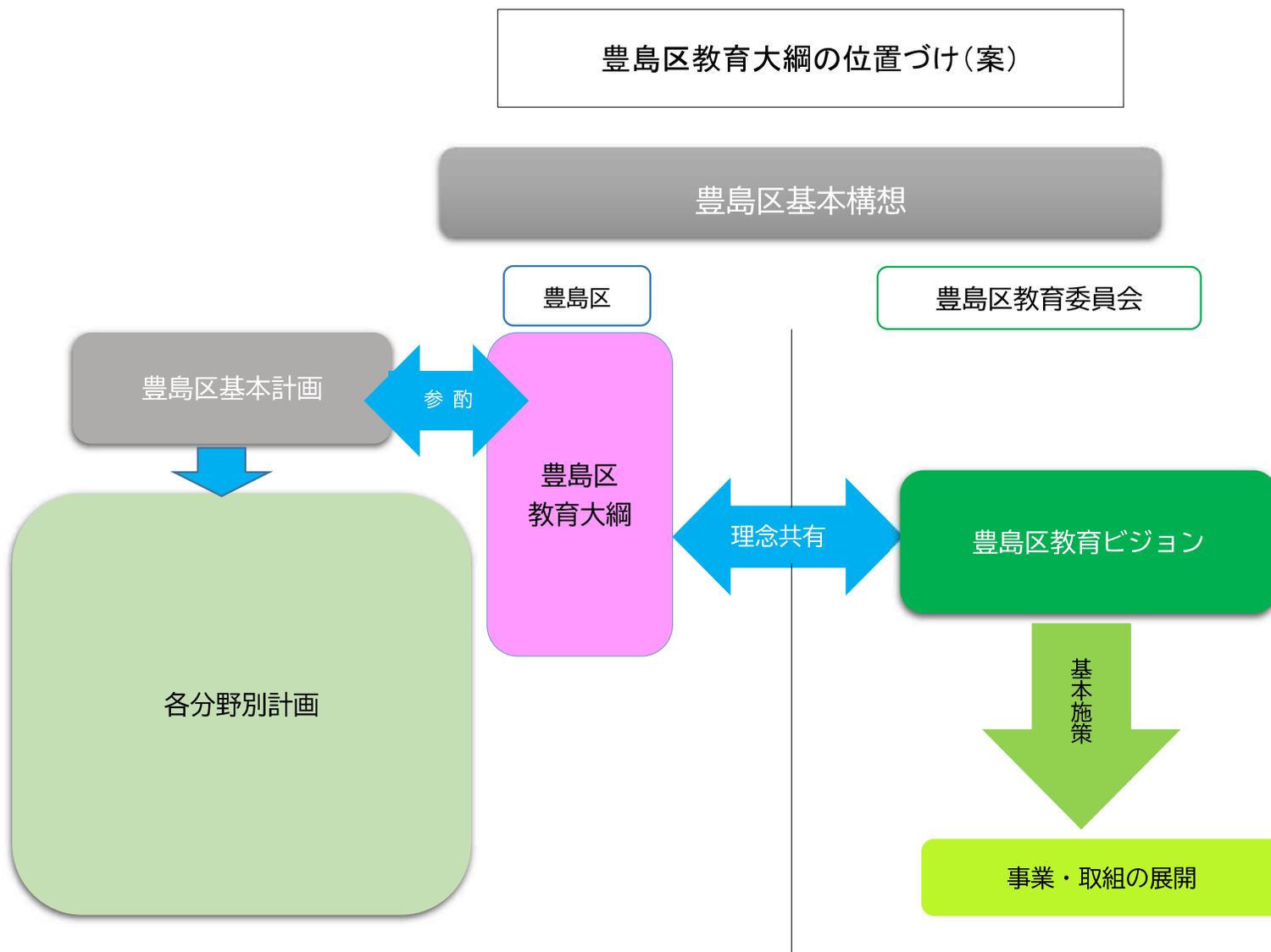
働き方改革教員アンケート結果
(令和4年度実施)

豊島区教育大綱素案(案)

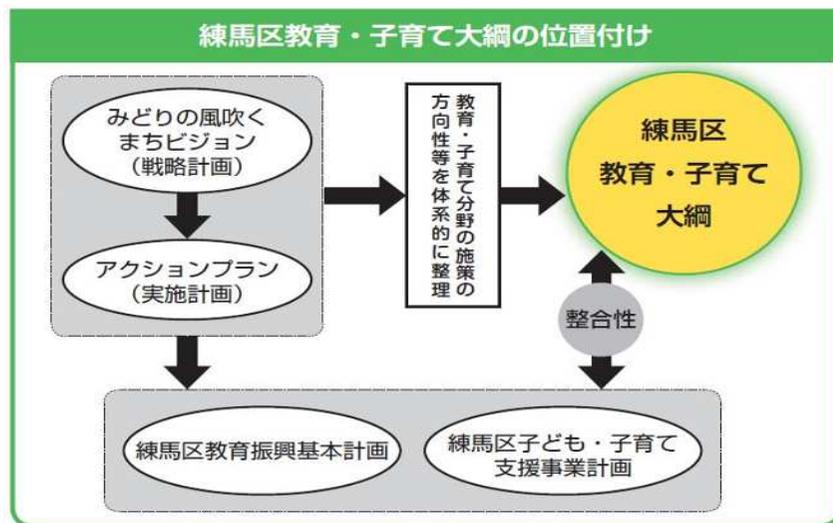
令和6年7月

発行 豊島区

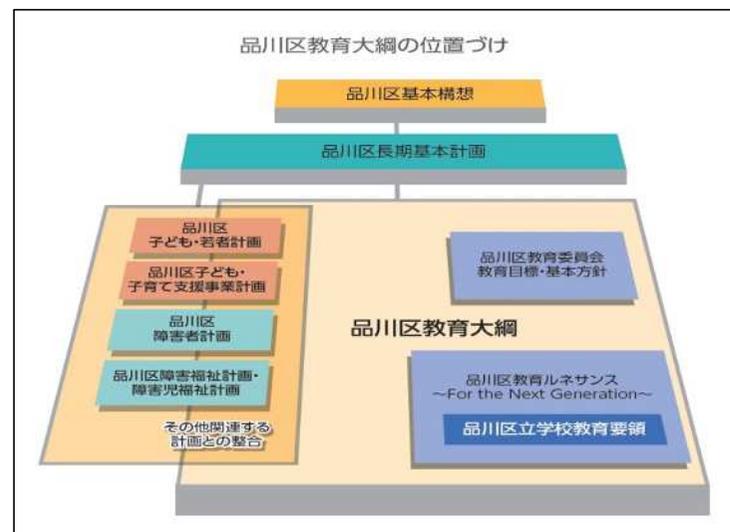
〒171-8422 東京都豊島区2-45-1



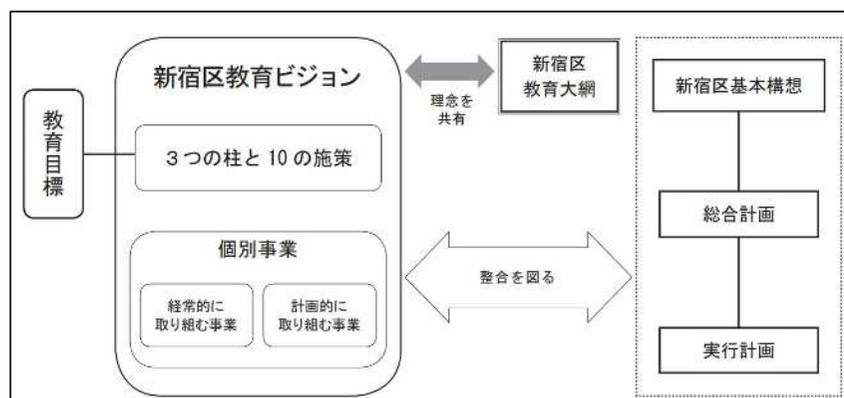
他自治体の大綱位置づけ



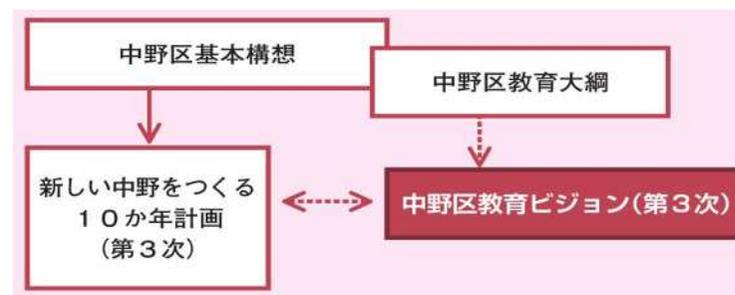
(練馬区)



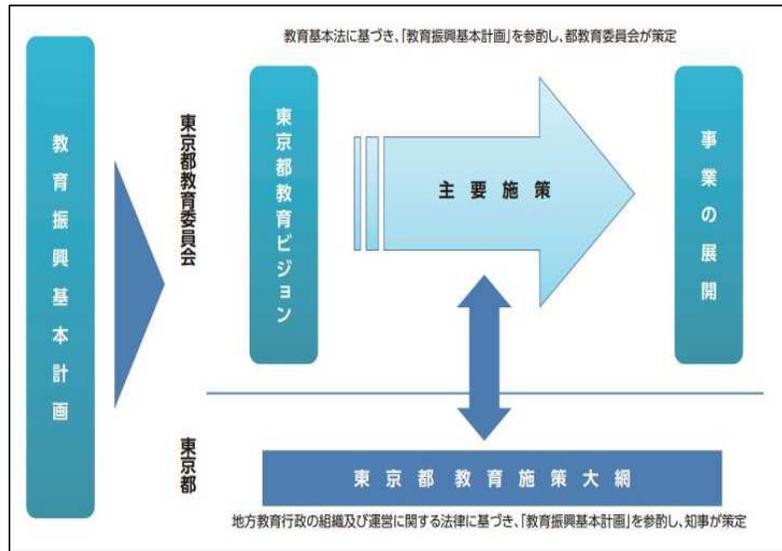
(品川区)



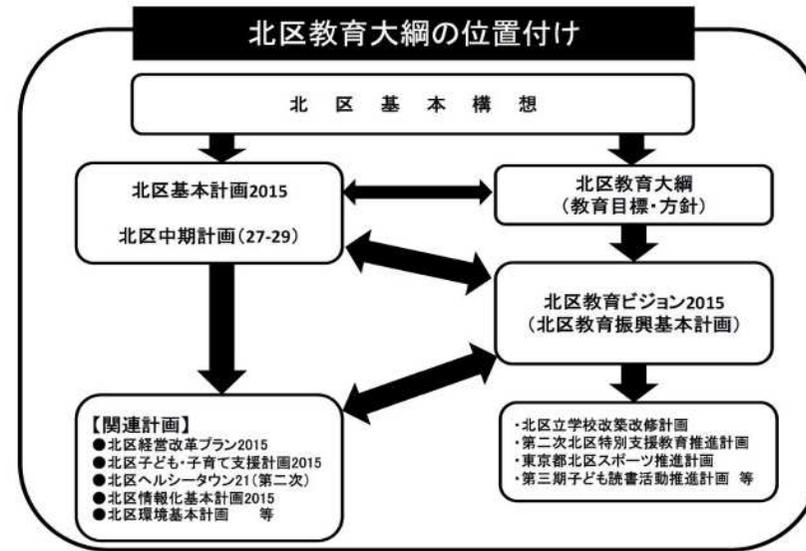
(新宿区)



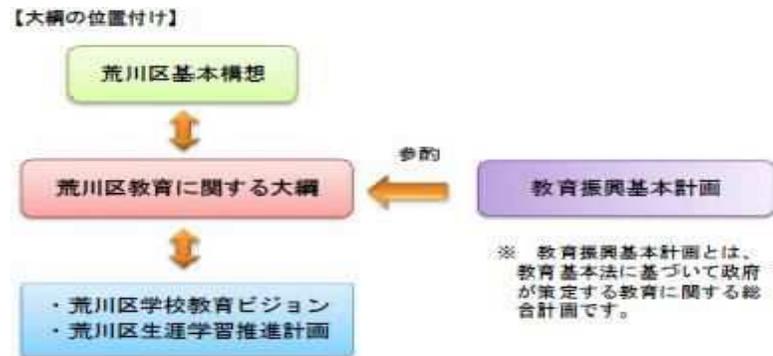
(中野区)



(東京都)



(北区)



(荒川区)

豊島区教育大綱パブリックコメントの実施について

1. パブリックコメントの実施方法

実施期間	令和6年7月22日（月曜日）から令和6年8月22日（木曜日）まで
周知方法	① 広報としま：7月21号掲載 ② 区ホームページ：7月22日（月）～令和6年8月22日（木）
閲覧場所	庶務課、行政情報コーナー、区民事務所（東・西）、各図書館、各区民ひろば、区ホームページ
意見募集方法	郵送、直接持参、FAX、Eメールにより募集
提出先	教育委員会事務局 庶務課 教育計画グループ

2. 素案への反映

パブリックコメント実施後、寄せられた意見を反映した案を委員へ送付し検討
令和6年10月に予定されている令和6年度第3回総合教育会議にて、パブリックコメント
を反映した豊島区教育大綱を策定

3. 結果の公表について

公表日予定：令和6年11月頃
周知方法：区ホームページ掲載
閲覧場所：行政情報コーナー、区民事務所（東・西）、各区民ひろば、各図書館、庶務課、
区ホームページ

小学校・中学校長から頂いたご意見

方針 1

幼児期からの切れ目のない教育を推進し、未来を担う確かな学力と健康で活力に満ちた子どもを育成します

①生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期における就学前教育を充実させます。

頂いたご意見

- 保幼小においては、就学前プログラムから幼学校に入るまでの円滑な教員と保育士の連携が必須。小中においては、生徒会児童会レベルの交流と教員同士の顔が見える交流が必須。授業研究の連携よりも子どもたちをいかに連動させるかにシフトチェンジすべき。
- 発達段階に応じた連携「幼保小」「小中」「中高」に焦点化し、系統立てた区としての推進計画が必要と考える。小中連携においては、ブロックごとの協議会形式の単発的な交流ではなく、区レベルでの子ども同士の交流が必要だと考える。
- 保育園 6年・幼稚園 4年・小学校 6年・中学校 3年の最長 15 年を教育機関で過ごさせ“としまっ子”を育てる気概が必要である。いずれも校種が変わる時に学びの連続性が問われるため、隣接校種の参観が必要である。参観については、区としての方針として位置づける。
- 重要なテーマと考える。本校では SDGs の理念として、すべてのターゲットの根本は「人とのつながり」と考え、本校では小中学生の連携交流を進めており、この取り組みに関して区の研究指定を受けている。また、昨年度は高等学校との連携にも広げた。今後、地域の未来を担う人材の育成につなげていきたい。
- 保幼小連携の会議を年度当初と年度末に行うなど、区主導でシステム化してほしい。

②デジタル機器を最大限に活用した先進的な教育を推進し、子どもたちの学習意欲と知識・能力を高めていきます。

頂いたご意見

- 夜間、休日に対応できる生徒・保護者向けのヘルプデスク整備
- DX化→テスト自動採点、生徒の登校状況の区との一元管理
- デジタル機器特に GIGA 端末は文房具としての活用であり、その点ではどの学校も取り組んでいる。現在、求められていることは AI をどのように利用するかということである。乳児・幼児・園児・児童・生徒のそれぞれの発達段階における思考方法を研究するとともに、Google・Apple・Microsoft などの AI と突合を行い最適 AI を見い出す。令和 7 年度から 2 年間の PT を作り、区内の大学と連携し研究成果は区 HP に公開する。1 年目は理論面における中間発表とし、2 年目は実践面における保幼小中において発表を行う。
- 全国的に ICT の活用がこれだけ進んでいるなかで、「先進的な」教育というのは何を指すのか。生成 AI の導入なども検討していくことは何を指すのか。教員によってその活用に大きな差がある現状ではなかなか難しいのではないかと思います。学校として、改めて真剣に取り組む必要もあるとは考えている。ICT のスキルが長けているが、教科指導の経験が浅いため、効果的に活用できていない若手と教科指導に長けているが、ICT に苦手意識をもつベテランがお互いに学び合えるようなことも必要である。
- デジタルの有効活用のためには、単にその推進を企図していけば良いのでは無く、そのメリットとともにアナログ対応のメリットも再考し、教育の現場においては、双方の融合を図っていくことが今後の課題になっていくと思う。
- Chromebook の配備が進み台数も少しずつ充実しています。故障時の予備の配備が進み台数も少しずつ充実しています。故障時の予備機等の要望のほかに、生徒にとって先輩のお下がりであることが残念であるようです。小学校で大事に使っていたのに、中学校の卒業生のお下がりの状態があまり良くなかったといった場合です。何年かに一度最新型に買い替え等をする事になると思いますので、小学校で使っていたものをそのまま中学校で使えとよいのではないのでしょうか。9 年間でほぼ減価償却と捉えられ、中学卒業時のリフレッシュや故障対応でなかなか戻ってこないため 1 年生に 4 月中に配布できないといった現在の状況も解消できると思います。
- 「デジタル機器の先進的な取組」とはどんな取組を指すのか。本区は他の自治体と比べても遅れをとっている現状もある
- 校務と学習指導が一体化できるような環境の整備

方針 2

多様性を認め、誰もが自己肯定感や自己有用感を感じられる教育を推進します

①子どもたちの声をしっかりと聴き、思いを受けとめ、子どもの学ぶ権利を保障します。	
頂いたご意見	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会交流会などを有効に使い、区民向けの啓発冊子等を作成する等 ○全国的に不登校の児童・生徒が増えている。しかしながら、従前のように自宅に引きこもるといった状態ではなく、早朝や放課後であれば登校し、各種行事であれば練習も含めて参加する児童・生徒である。不登校というよりも長期欠席という言葉が当てはまる。N 高等学校のように広域通信制高等学校が市民権を得ている状況であり、学校としての機能が問われている昨今である。文部科学省の言っているように、誰一人取り残さない教育を本区としても目指すには、長期欠席児童・生徒に向けた働きかけが必要である。早しても目指すには、長期欠席児童・生徒に向けた働きかけが必要である。早朝や放課後に学校の空き教室を用い、新たに雇用した担当を1名つけた上で長期欠席児童・生徒の学校への登校を促してはどうか。学習権の保証はこのような形で担保してはどうか。 ○学ぶ意欲と権利を支え、自己肯定感につなげるためには、「学習」や「学力向上」について、自分のため・自分の進路やキャリアのためという意識のみならず、学習行動そのものが将来の社会発展に寄与するものなのだとの意識を、生徒本人及び保護者にもてるよう、働きかけることも必要と思う。 ○自殺企図など、ゲートキーパー的な動きをしてくれる部署があると安心(学校向けの SOS の出し方研修や緊急時の学校支援) ○子どもたちの成長には心の成長が欠かせない。心を配り、心を砕き、心を育てる。教員であれば、当然のこととして取り組んでいる。区の職員を1年間学校、各校に1名派遣し、学校業務に携わらせる。区として「としまっ子」を育てることへのシフトチェンジを行う。超少子高齢化であり、区民へのアピールにもなる。
②障害の有無や国籍等にかかわらず、個々の人権を大切に、一人ひとりの子どもに寄り添った教育を推進します	
頂いたご意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ガイドラインに沿った、教職員向けのマニュアルの作成(服装、宿泊、進路など) ○外国籍児童・生徒への支援の強化が必要である。現在、教育センターで行われている日本語初期指導は、一定の条件(来日からの日数)が満たされなければ入級できない。日本語の習得には個人差があり、上級学校への進学を可能にするためにも日本語指導教室の運営体制を見直す必要がある。各学校に在籍する日本語指導が必要な生徒は年々増えており、誰一人取り残すことのない教育のためにも日本語指導教育の充実が求められる。 ○外国にルーツをもつ生徒、特別な配慮を要する生徒を含めた多様性である。特別支援学校教育要領自立活動6区分27項目を研究されたい。インクルーシブ教育をうたうことは、区として将来的な財産となる。なお、文部科学省特別な配慮を要する生徒の割合(2002 6.3%、2012 6.5%、2022 8.8%)である。 ○本校には情緒の固定学級があるが、そこでの実践を特支教室や通常学級などに生かすことができている。支援が必要な生徒への対応については、専門的な知識をもった教員の実践を共有していけるのではないかと思います。
③いじめや不登校、困難な家庭環境などといった状況に置かれている子どもを全力でサポートし、誰一人取り残さないきめ細かい支援を実施します。	
頂いたご意見	<ul style="list-style-type: none"> ○各関係機関の明確な役割分担(警察・児相・子家・福祉) ○学校外の学習できる環境を整備した居場所の設置という点から、現在、東池袋と長崎地区にある2カ所の中高生センタージャンプを他地区(駒込地区など)にも増設する。 ○ヤングケアラー、準要保護家庭、要保護家庭、DVにより逃れシェルターと呼ばれるマンションに移り住んでいる母子、児童養護施設、触法少年等、ケアが必要な児童・生徒がいる。その場合、保護者もケアが必要である場合が多い。子どもをチーム豊島で支えるためにご家庭を支えなければ、誰一人として取り残すことのない教育には到達が難しい。日本の場合、学校の福祉的機能があることが言われているが、学校でまかなうのであれば専門職員の増員が欠かせない。保護者にとって最も電話をかけやすいのは区よりも学校であるに違いない。そのように考えれば、学校に常勤し、区と直接やりとりをできる専門職が必要であろう。セーフティネット作りとなる。 ○区費カウンセラーの配置、教育センターの人的充実、正規職員を増やしてほしい

方針3

地域の魅力や本物の芸術・文化に触れる体験を通じ、心豊かで地域を愛する子どもを育成します

③国際色豊かなまちの強みを活かして多文化教育を推進し、共生社会の担い手となるグローバルな人材を育成します。

頂いたご意見

- 短期留学体験など
- 東京国際大学など大学と連携した外国語コミュニケーションを主とした学習機会の提供、代表生徒が学ぶのではなく、全中学校が学年単位で授業の一環として学ぶ柔軟な教育課程の策定をしてはどうか

方針4

子どもと教員を支え、学びと成長を実感できる、新しい時代に適応した学校づくりを推進します

①学校・家庭・地域がつながり、地域全体で子どもを見守り、育てる教育活動を展開します。

頂いたご意見

- 学校の最も重要な部分。努力します。
- 多様な問題を抱える児童生徒への対応として、SSW の配備の充実なども進んでいます。居場所づくりやVLP も導入されることになりました。様々な場所での学習の保障と、出席扱いにしてよい基準がつけられて、別室登校などでもより安心して通える制度を作れるとよいです。
- コミュニティ・スクールを1年でも早く組む。コミュニティ・スクール内で児童・生徒観の共有を行うことで「地域との関わりを大事にする教育環境作りを支援する」。
- 通級の拠点校、固定級設置校を増設

② 企業や大学など、地域ネットワークを活用した、多様で特色のある教育の場を創出します。

頂いたご意見

- 教育課程の届け出に関し、各校で柔軟かつ特色のある計画を作成する。ついては、土曜授業の廃止、行事の精選等、教育委員会としての姿勢も変化を望む
- 各大学との連携可能な情報提供(リスト)作成を検討してはどうか。また、区教委に大学連携担当を置くことで、小中学校と大学との連携が円滑に推進できると考える

③計画的な学校改築・学校改修を推進し、どの学校においてもより快適な学習環境を提供します。

頂いたご意見

- 一人一台のタブレットや体験交流活動の充実を想定した、教室の広さや利便性を高めていただきたい。(教室が狭すぎてどうにもならない)
- 学校によってインフラの整備状況は校舎の老朽化や時間経過に伴いまちまちである。よって、真の学校間格差是正のためには、予算等を均等配分する発想から脱却し、積極的傾斜配分も必要であり、新規校舎など教育インフラ整備の進んだ学校には少なく、築後時間の経過した学校には手厚くするなど発想が必要と思う。
- 学習環境の格差是正のため、改築のない学校に電子黒板を配備するなど、工夫してほしい。

④学校図書館の学習情報センター化と学校図書館司書の充実を図り、子どもたちが主体的に学習できる環境を整備します。

頂いたご意見

- この先、司書は自治体間での取り合いが想定される。賃金もそうだが、司書が重きを置いている「蔵書量」「新書の充実」「学校間のネットワーク構築(TRC)」全校に読み物図書室、情報センターの2カ所を常設など
- 豊島区の中で育ってきた子どもたちは、豊島区以外の同級生も同じ生活をしていると思っています。しかし、豊島区だからできることや例えば西池中だからできることなど、もっと子どもたちや保護者にアピールし、子どもたちが育った後、「豊島区で働きたい」「豊島区に住みたい」と思える環境や教育をやらなければならないと考えています。
- 学校図書館司書の常駐

⑤教員が心のゆとりとやりがいをもって生き生きと働ける環境を創り、教育活動の質を向上させます。

頂いた
ご意見

- 「教員の声に耳を傾け～」「生き生きと働ける環境～」などがあるが、具体的ではないように思う。
- 教育活動の質の向上という視点では、一律の取組もよいが、地域ごと、学校ごとの特色があり、その特色に応じた学校独自の取組ができるとよいと考える。
- 教員の専門性向上に尽きる。研修内容を区として斡旋する。包括連携協定を結んでいる全ての大学の全ての公開講座を無料で受講できるようにする。
- 人材が不足しているのは事実で、改善しなければならないことであるが、どうしても仕事量に偏りが生じているのが現状である。ただ、一人ひとりの働き方に対する考えは違い、一律に何かを決めることはできず、それぞれが必要としていることに対応していくのは難しい。
- SSS 週5日勤務